

新産業廃棄物最終処分場基本計画策定委員会の中間報告会に際しての質問状

2021年12月4日（土）

日立市千石町 1-15-26

鈴木 鐸士

委員会の資料と議事録を拝見させていただきましたので、本日は良い機会と
思い一つだけに絞って質問を用意しました。誠意あるご回答をお願いします。

議事録によると、吉成委員から「調整槽の規模は、いろいろのデータから検討
してエコフロンティアかさまの約3倍になることが分かったが、1日の降水量を
200mmとしても、豪雨時が2,3日降り続くといった状況も懸念される」旨の質
問がありました。

これに対する回答は、「今のところ、30,300 m³と設定しており、仮に3日間で
200mmの雨が続く場合には、この設定容量では足りなくなり、一時的に内部貯留
することもあり得る」旨でした。

この間の廃棄物槽の降水量は58,800 m³ですから、気軽に内部貯留できるはず
がありません。常時調整槽は満杯でしょうから、降水のほぼ全量を廃棄物槽に内
部貯留することも起こり得ます。内部貯留は少量でも避けるのが原則です。

3日間で600mmの降雨は、決して珍しくはなく、今年は1,000mmに達したニュ
ースを2回も聞いたと記憶しています。水防法の規定は、想定最大雨量は、関東
地方はどこでも1日間で690mm、3日間で1,092mmとしています。

なお、阿部委員からも、「近年の局地的豪雨の状況から、過去30年というも
のから見るだけでなく、今後どうなっていくかを見ながら豪雨を想定したほ
うがよい」旨の貴重な意見が寄せられています。

したがって、想定降雨量は水防法の規定により、一日間で690mmとして、調
整槽を約2倍の60,000ぐらいにすべきと要望します。

*平成23年から27年までの浸出水発生量は、通常月10,000tで、年に2か月
ぐらい内部貯留になっている状況との報告もあった。処理能力は12,000tです
から、80%の稼働率で常時頑張っても、内部貯留を避けられない状態ですから、
最大発生量23,000tぐらいの容積をいつでも空かすよう設計すべきである。